



ECO-TOP プログラム

自然環境保全のための人材育成・認証制度

東京都・大学・企業・NPO 等が連携し

自然環境分野で活躍する人材を社会に送り出すための人材育成プログラム



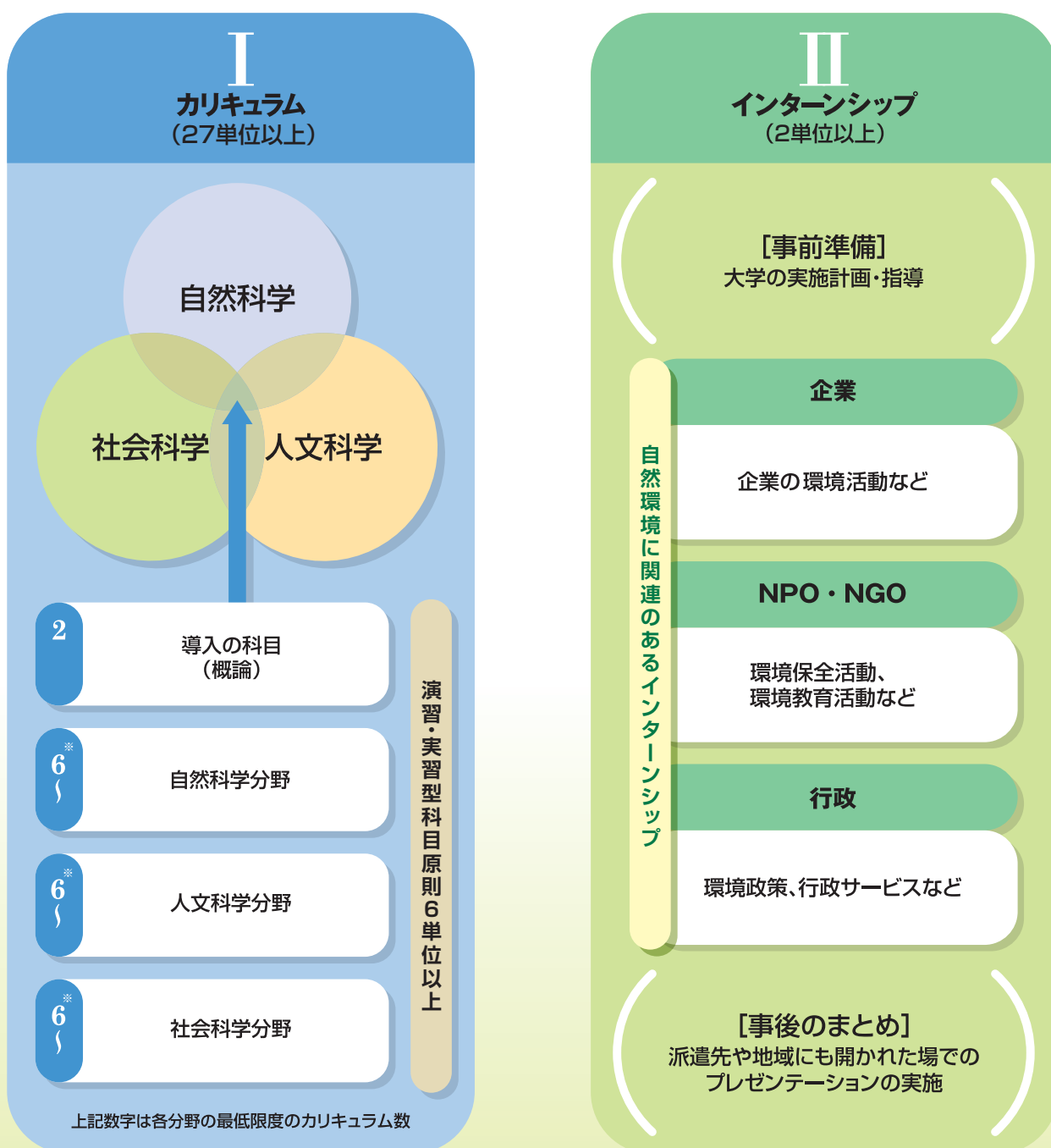


大学等が自然環境保全のための教育課程を設け、東京都が「ECO-TOPプログラム」として認定します。

ECO-TOPプログラムの履修生は、授業で自然環境分野の幅広い知識を得ることができ、インターンシップにより企業、NPO、行政の実社会における自然環境に関連のある職場体験をします。

また、プログラムの修了生には、自然環境に関する最新の知識・情報を得る機会を提供するなど、継続的な支援を行っていきます。

〈プログラムの構成〉



※各分野で原則6単位以上設定することとしているが、1つの分野につき6単位以上設定できない場合は、総合的に判断する。

※詳細はECO-TOPプログラムの認定審査基準を参照 <https://eco-top.metro.tokyo.lg.jp/download/>

ECO-TOP

プログラム申請から認定まで

～8月頃

1月頃

申請の意向を東京都へ連絡

申請書の提出

認定検討会

認定決定通知

申請内容
(概要)

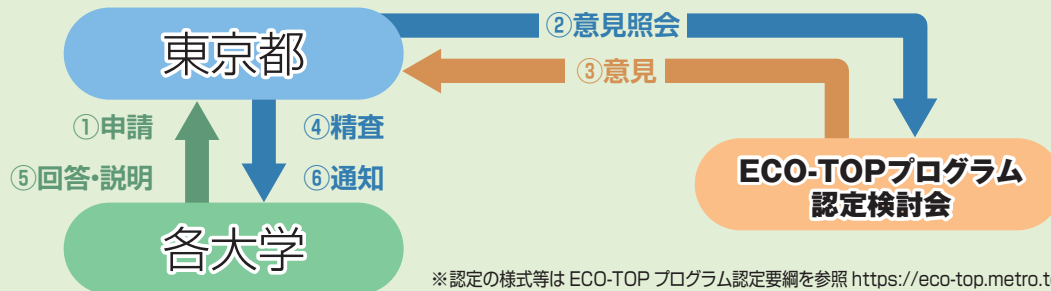
申請する学部(学科)の概要
カリキュラムの科目のシラバス
教育点検・改善方法のシステム

認定を受けるカリキュラム内容
インターンシップの計画
責任者及び教員体制

カリキュラムの担当教員
人材育成の理念

ECO-TOPプログラム 認定の手続

東京都が制定した「ECO-TOPプログラム」認定要綱及び認定審査基準に基づき、大学から申請されたプログラム内容について、認定検討会に意見を聴取し、ECO-TOPプログラムとしてふさわしいかを精査した後、手続を経て東京都知事が認定します。



ECO-TOPプログラムはSDGs達成に寄与する人材育成制度です

東京都は、ECO-TOPプログラムが、自然環境分野に関連する様々な社会的課題の解決につながることを期待しています。下記には、SDGsの中でも特に自然環境分野と関わり合いの強いものを事例として挙げています。

森林浴など心や体の健康と自然との関わりを考えます

森林や都市環境と
海の生態系との
関わりを考えます



都民の飲み水を
支える水源林の
保全を考えます

自然の持つ
減災機能など
気候変動との
関わりを考えます



再生可能エネルギー
の利用と自然環境の
保全を考えます

自然の恵みの
持続可能な利用と
保全を考えます



働く人にうれしい
安らぎを与える
緑の価値を考えます

自然と共に生きる都市づくりを考えます



ECO-TOPプログラムでは、企業・NPO・行政における自然環境に関連のあるインターンシップを義務づけています。

インターンシップにおいては、「自然環境分野の課題解決や自然を活用した社会的課題解決に資する実社会の経験」が盛り込まれていることを推奨しています。

インターンシップで都が推奨する業務体験の想定事例

①自然環境のフィールドワークに行く業務体験の想定事例

里山で保全活動を行っている行政やNPOで、四季を通じた活動に主体的に参加し、里山の維持管理ノウハウや市民活動の重要性について学ぶ。

事業者から受託して環境影響評価の調査を行うコンサルタントの調査現場や外来種駆除を行う事業者の作業現場に同行し、環境に配慮した開発のあり方を考える。

②自然環境のフィールドワークに行かない業務体験の想定事例

持続可能な原材料調達や環境配慮商品に関する国際認証ラベルを推奨する団体や自然環境問題について政策提言を行うNGOやNPOなどにおいて、国際的な最新情報に触れながら将来の社会のあり方を考える。

薬剤など自然資源を原料として活用する企業や自然の機能を防災・減災に活用（Eco-DDR）する行政等において、自然を活用した社会的課題の解決策（Nature-based Solutions）について考える。

5月

インターンシップ
派遣予定者の決定

7月

インターンシップ実施

～9月頃

11～12月

インターンシップ
合同報告会

企業インターンシップ

実績例 株式会社LIXIL

■ 実習生：2名

■ 実習期間：令和5年9月5日(火)～9月21日(木)の期間中の5日間

■ 実習目的及び概要：

環境負荷を考慮した製造工程の見学や、環境配慮商品を使用した住宅を体感できるショールームの見学等を通じて、環境配慮を考えた企業活動を学び、より進んだ環境配慮型企業活動を提案する。



材料工場見学の様子



体感型ショールームの見学

日 程	実 習 内 容	場 所
9月 5日(火)	会社概要及び環境活動、製造現場の見学①	工場
9月 6日(水)	製造現場の見学②、環境配慮商品の学び	工場
9月 7日(木)	環境配慮商品の比較体感と実物商品の実感	ショールーム
9月20日(水)	課題について資料収集と考察	事務所
9月21日(木)	課題のまとめと発表会、評価と意見交換	事務所

令和5年度の主なインターンシップ受入企業 ※五十音順

株式会社エステム、株式会社LIXIL、J&T環境株式会社、YKK AP株式会社

NPO等インターンシップ

実績例 NPO法人みどり環境ネットワーク!

■ 実習生：1名

■ 実習期間：令和5年7月23日(日)～9月4日(木)の期間中の7日間

■ 実習目的及び概要：

都市緑地における生物多様性保全活動の現場を体感し、生物多様性の恵みを実感・楽しみながら、次世代のために自分自身ができることを考え実行する。そして、そこで繋がったネットワークを活かし、今後の研究、就職、ライフワークに繋がるような知見を広げる。



日 程	実 習 内 容	場 所
7月23日(日)	イベントスタッフ体験：森のようちえん&生き物調査（月例調査）	都立光が丘公園
8月 1日(火)	生き物解説プログラム企画・資料準備：夜の森探検	事務所
8月 5日(土)	イベントスタッフ体験：セミの羽化の神秘～夜の森探検～	都立光が丘公園
8月 8日(火)	自然体験プログラム企画準備：森のようちえん	事務所
8月23日(水)	森のようちえんプログラム運営	都立光が丘公園
9月 3日(日)	生き物調査（月例調査）実施及び、森のようちえんプログラム運営 NPO会員、イベント協力者（他大学インターンシップ生含む）	
9月 4日(月)	実施報告書作成、まとめとふりかえり	事務所

令和5年度の主なインターンシップ受入NPO ※五十音順

一般財団法人環境イノベーション情報機構、一般社団法人まちやま、グリーン購入ネットワーク（GPN）、（公財）日本環境協会、特定非営利活動法人みどり環境ネットワーク！、NPO法人ネイチャーリーダー江東

行政インターンシップ

実績例 東京都環境局自然環境部

■ 実習生：9名

■ 実習期間：令和5年8月28日(月)～9月1日(金)の期間中の5日間

■ 実習目的及び概要：

自然環境保全に関わる業務及び現地視察を通して、行政の自然環境保全に対する理念、手法及び方針などを学ぶ。また、まとめとして自然環境行政についての提案を行う。



自然公園での実習の様子



最終日の発表の様子

日 程	実 習 内 容	場 所
8月28日(月)	オリエンテーション、東京都環境局自然環境部の事業説明、生物多様性に関する説明	東京都庁
8月29日(火)	自然公園（明治の森高尾国定公園）内の巡視、利用マナーの啓発、植生回復事業現場の視察（実習）	明治の森高尾国定公園（高尾山周辺）
8月30日(水)	・保全地域制度と生物多様性保全に係る取組について（講義） ・ボランティア団体による管理手法について（実習）	八王子長房緑地保全地域
8月31日(木)	課題解決策の議論、発表資料作成、中間発表	東京都庁
9月 1日(金)	課題解決策の発表、意見交換	東京都庁

令和5年度の主なインターンシップ受入行政 ※五十音順

エコパークさがみはら（相模原市立環境情報センター）、公益財団法人東京都環境公社、相模原市立博物館、東京都環境局自然環境部、町田市環境資源部環境政策課

インターンシップ合同報告会

例年秋ごろ、認定大学の合同行事としてインターンシップ合同報告会を開催しています。合同報告会には、認定大学の学生や教員、インターンシップの受入先となった企業・NPO等・行政の方々も参加し、プログラムにおいて一大イベントとなっています。

報告会では、インターンシップを経験した学生によるポスター発表が行われ、参加者同士による活発な意見交換が行われます。報告会後の交流会は、大学や関係機関の枠を超えたつながりを作る有意義な時間となっています。

また、インターンシップでの経験を振り返り、学びを再確認するとともに、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の向上に役立てる貴重な機会でもあります。プログラムを通じて、学生の成長を実感できる場です。



プログラム履修のメリット

○緑のボランティア指導者育成講座の受講料減額

東京都環境局では、自然観察や緑地保全活動などのボランティア活動の指導者を目指す方のために、基礎技術や指導法等が学べる講座を開設しています。募集人数には限りがありますが、ECO-TOP修了生には別途募集枠を設けており、受講料の減額もあります。



○環境カウンセラーの登録要件緩和

環境カウンセラー制度は、市民や事業者が行う環境保全活動に対して、豊富な知識と経験を活用して助言を行うことができる人材を環境省が登録する制度です。市民団体や学校の相談に対応する「市民部門」は、通常登録申請のためには4年間以上の環境保全活動に関する実績が必要ですが、ECO-TOP修了者は実績年数が1年とカウントされ、実績年数が短縮されます。

ECO-TOPプログラムを履修した先輩の声

ECO-TOPプログラム履修生（2025年卒業予定） **岩崎 光夏 様**

大学で環境学を専攻する中で、様々なステークホルダーがいることを知り、各主体による環境事業の取り組み方の違いに興味を持ったため、ECO-TOPプログラムを履修しました。インターンシップは、企業・行政・NPOの3分野に参加し、企業では、産業廃棄物処理事業のマニフェストに関する業務体験や工場見学、行政では、事業提案や緑地保全地域等での保全活動体験、NPOでは、小学生と保護者を対象とした自然との繋がりを体験するイベント等の補助などに取り組みました。

インターンシップを通して、“環境”には様々なステークホルダーによる様々なアプローチの仕方が存在するからこそ、環境のみの視点ではなく、多角的な視野を持つことの大切さや、自然を維持していく上で、人手による管理があるからこそ、多様性が保たれているという管理の重要性と大変さ等を体感した貴重な経験になりました。

現在、公務員を目指しています。公務員の業務では、様々な主体との連携が大切であると考えているため、ECO-TOPプログラムで学んだ視点の違いを業務に活かしていきたいです。



ECO-TOPプログラムが目指す人材像 (Ecological Conservation Training of Personnel Program)

“自然環境に軸足を置いたジェネラリスト”

- 1 自然環境保全に向けて様々な主体と協働できる能力がある人
- 2 一地域の現場から、次世代を見据え、グローバルな視野に立って自然環境を考えることができる人
- 3 論理的思考力と説明・コミュニケーション能力がある人
- 4 決定能力とリーダーシップがある人
- 5 現場感覚を持ち、アクティブに行動できる人

認定大学

- 東京都立大学 (都市環境学部 観光科学科)
- 玉川大学 (農学部 環境農学科)
- 桜美林大学 (リベラルアーツ学群 環境学プログラム)
- 武蔵野大学 (工学部 サステナビリティ学科)
- 東京薬科大学 (生命科学部 応用生命科学科)

ECO-TOP インターンシップのご案内

東京都ではECO-TOPプログラムの趣旨に御賛同いただき、ECO-TOPプログラムのインターンシップを受け入れていただく、企業、NPO・NGO、行政機関を募集しています！
受入れを希望される団体は、下記のお問合せ先までご連絡ください。

ECO-TOPプログラム ホームページ

<https://eco-top.metro.tokyo.lg.jp/>



東京都

ECO-TOP プログラムに関するお問合せ先

東京都環境局自然環境部計画課 (計画担当)

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1 都庁第二本庁舎19階

TEL 03-5388-3548

Mail S0000631@section.metro.tokyo.jp

